

資料2 「3年生の新聞を作ろう」活動計画

活動の内容	指導上の留意点	観点
事前 ○ 3年生の新聞の話し合い ○ 係毎の新聞作り	・新聞の名前や内容について話し合わせ、活動への見通しや意欲を持たせる。 ・係全員が必ず作業に参加できるようにする。	①
本時 1. はじめの言葉 2. 学級の歌 3. 今日の活動 4. 新聞貼り 5. 話し合い ・「みんなのコーナー」をどうするのか 6. 決まったことの発表 ・がんばった人の発表 7. 先生の話 8. 終わりの言葉	・児童は最初は着席せず、新聞の回りに集まって作業しやすいようにさせる。 ・それぞれの係の新聞を貼る位置や手順について確認させ、スムーズに活動が進むようにさせる。 ・貼り合わせた新聞を見ながら、児童と共にそれぞれの工夫を賞賛する。(賞賛) ・話し合いが停滞したり、意見がまとまらない場合は、次の観点で話し合わせた。 (方向の示唆) ・全員が参加するコーナーであること。 ・期日やコーナーのスペースに限りがあること。 ・発表の態度(回数、声の大きさ、友達の意見に対しての意見発表など)が良かった児童について、計画委員から発表させ、お互いの活動を認めさせたい。 ・全員で協力して、活動したり、話し合ったりした後をほめて、新聞完成に向けての意欲を高める。(賞賛・励まし)	①②③ ② ③ ②
事後 ○ 新聞の完成	・掲示場所や他学年へのPRなども考えさせながら完成の喜びや満足感を味わわせ、2学期の活動意欲につなげる。	

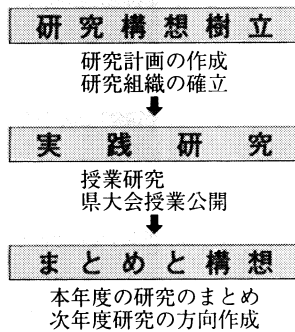
三、研究の視点
児童一人一人が楽しく係活動に取り組むためには、児童の活動意欲を高める

「喜んで参加する係活動」
→ 当番活動的な係を見つけ、一人一人が役割を持って活動する児童の育成
○ 中学年テーマ
「進んで活動する係活動」
→ 学級生活を楽しくするために、係活動を工夫して行うこととする児童の育成
○ 高学年テーマ
「主体的に活動する係活動」
→ 係間相互に協力し合い、自分たちの手でより良い学級を作っていくこととする児童の育成
維持していく必要がある。そこで、本校では次の三つの視点から、具体的な手立てを講じていくことにした。
(1) 活動のイメージ化を図ること
児童が実際の活動に入る前に、どのような活動になるのかをイメージ化し、見通しをもつことが大切である。また、イメージ化することにより、大事なことは何か、どんな点に問題があるのかなどについて検討できるようにする必要がある。
(2) 活動における教師のかかわり
児童の活動に当たって、教師はどのように指導・援助をしていくかが重要な課題である。
言葉や文字を通しての方向づけ、賞賛や励まし、教師のうなずきや承認などが重要となる。いずれにして

(1) 活動名「3年生の新聞を作ろう」

実践例Ⅰ(第三学年)

3 授業実践例
次に、本年度の授業研究の中から二つの実践例を紹介する。



係活動カレンダーを具体的活動に結びつけるために「係

児童の豊かな発想

事後の活動も上手にできた。

実践活動を通しての話し合い
→ 授業前半で係ごとに作成した新聞を貼り合わせる実践活動

(3) 指導の観点と考察
① 活動のイメージ化

授業前半で係ごとに作成した新聞を貼り合わせる実践活動を通しての話し合い

四、研究の実際
1 研究組織(略)
2 研究計画

も、肯定的に児童の活動を見守る教師の姿勢が前提条件となる。
(3) 活動を認め合う場の設定
自分や自分たちの活動が認められることは、次の活動へのエネルギーとなる。そのためにも、児童相互の認め合いや教師の賞賛などは、児童の実際の活動を踏まえたものでなければならぬ。また、常に友達の良い点を目を向けることのできる学級づくりが大切になってくる。

(2) 授業の構想

中学年のブロックテーマ「進んで活動する係活動」に迫るために、今までの当番的な活動から、学級生活を楽しくするような活動へと、活動の範囲を拡大させ、工夫・発展させることに、係活動に意欲的に取り組ませたい。
そこで今回は、それぞれの係で作成していた新聞をつなぎ合わせ、学級全体の新聞へと発展させ、係間の協力の大切さを気づかせたい。その後、残ったスペースを全員で作成するための話し合いの場を設け、学級全体で作り上げる新聞であることを意識させることにより、より意欲をもって自発的に取り組めるような児童を育成したいと考え、活動計画を設定した。(資料2参照)